

## 地震観測報告及び静岡付近の地震について

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鮫島, 輝彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00005933">https://doi.org/10.14945/00005933</a>

# 地震観測報告及び静岡附近の地震について

飯島輝彦

静岡測候所より拝借した簡単微動計による観測を昨年10月1日より開始した。この簡単微動は水平二方向のみの記象を得る水平振子型、重錘質量10kg振動週期約4秒、倍率は約40倍で使用している、制振器なしの型で近地地震の記象用である。

1953年10月1日より1954年6月20日までの260日間に丁度200回の地震記象が得られた。これは昨年11月の房総沖地震の余震約130を含んでいるのでこれを除けば70程の記象が得られたことになり約3日に1回の割合である。有感地震は12回で内震度Ⅱ3回であつた。

遠地地震では本年2月11日に中国寧貢省の地震が記録されたが、このような遠い地震には勿論本地震計は驗震器としての役にしか立たない。その他北海道の地震が数回記録された。

近地地震の記象ではP-S10秒以内のもの6個が得られた。

発震時	震度	P-S	振幅EW	振幅NS	E初動	S初動	震央	備考
53°10'21"10°04"	I	4.3 sec.	354 $\mu$	1000 $\mu$	-1.8 $\mu$	+3.8 $\mu$	34.9 138.3	(地名による) 高草山附近
53°12'18"11°24"	I	4.0 sec.	85 $\mu$	238 $\mu$	-3.8 $\mu$	+2.5 $\mu$	不明	
54°4'15"08°39"	0	10.0 sec.	18 $\mu$	30 $\mu$	?	?	35.4 138.9	由中洲能津震Ⅱ
54°4'15"21°28"	I	3.0 sec.	68 $\mu$	88 $\mu$	+1.3 $\mu$	+1.5 $\mu$	清水市北西?	
54°4'16"19°25"	I	3.0 sec.	200 $\mu$	140 $\mu$	?	?	31.5 138.4	清水北西
54°5'6"10°41"	0	10.0 sec.	27 $\mu$	33 $\mu$	?	?	船津附近	

以上の他P-S読取の出来ぬ極近地な微少地震の記象4個があつた。

静岡市附近で起つた過去10年間の地震の内震央の求められてあるものを図示する。これらは何れも40km以内の浅発地震である。顕著地震は1947年に安倍川口附近で起つたものが唯一つで、稍顕著地震は3回で、日町附近、玉川村地内、太田川下流にそれぞれ震央を有する。小区域



であるのは何か単純な意味を含んでいるように考えられる。

箱根山に起つた群発地震を別にすると静岡市北方より西北方にわたる安倍川及び大井川中流が地震の多発地域である。138.4° 35.1′N附近及び138.2° 35.1′N附近では共に6回宛起つている。(震央は緯度経度共1/10度までの精度で求められている。)

1947年3月11日14時16分頃

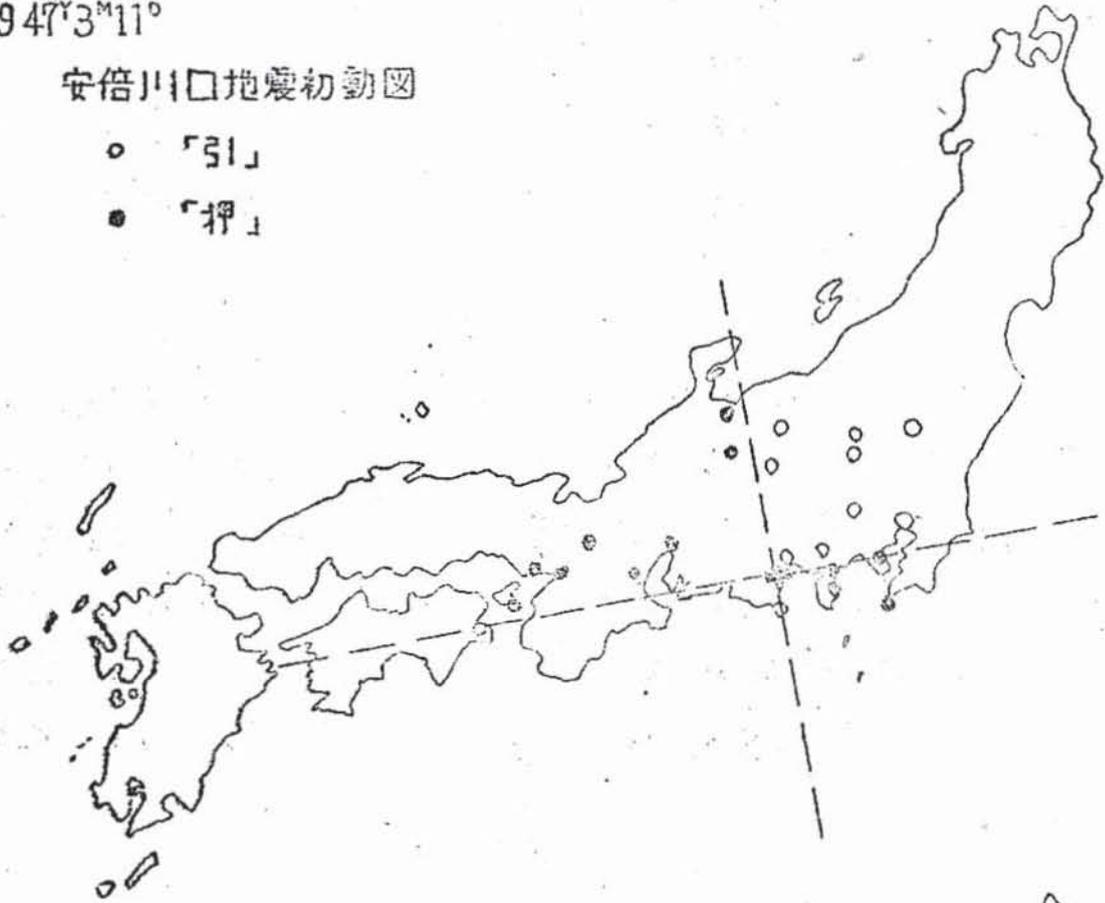
1947年3月11日14時16分頃の安倍川口附近に起つた顕著地震(138.4° 34.9′N静岡市の震度Ⅳ)は1935年7月11日17時25分頃に草薙で起つた静岡強震(138.5° 35.0′N最大震度Ⅶ)と共に静岡市周辺で起つた比較的大規模な地震である。この両地震の初動のデータはかなり広範囲に得られているので初動分布図を作つてみるとこの二つの地震の節線方向は殆んど同一であつて発震機構が近似した方向性に支配されていると考えられる。

(18)

1947<sup>Y</sup>3<sup>M</sup>11<sup>D</sup>

安倍川口地震初動図

- 「引」
- 「押」



1935<sup>Y</sup>7<sup>M</sup>11<sup>D</sup>

静岡地震初動図

- 「引」
- 「押」

